



## 北進地区産業廃処分場問題の

## 「今」と安平町の「これから」

長年、町民の皆様にご心配をおかけしてきた「北進地区の産業廃棄物最終処分場問題」。

このたび開催された「あびら環境フォーラムVOL.4」にて、及川町長より、事業者との関係が「対立から対話」へと大きく転換し、本問題が「1つの区切り」を迎えたことが報告されました。

これまでの経過と安平町の未来に向けた新たな取り組みについてご報告します。

### 「処分場ありきではない関係」へ

#### 事業者との直接対話

北進地区の産業廃棄物最終処分場計画は、過去に道から設置許可が下りており、法的に見直すことが非常に困難な状況にありましたが、平成30年北海道胆振東部地震による予定地の被災（土砂災害警戒区域への指定）なども踏まえ、町は国や道に対し見直しを要望し続けてきました。

大きな転機となったのは、現在の事業者である大栄環境株式会社とのトップと及川町長との直接対話です。これまでの経緯や地域の不安、町の基本姿勢を伝えた結果、事業者側から「大栄環境グループ一丸となり、安平町とWIN-WINとなる発展的な関係の構築を優先したい」との提案が示され、長年の懸案であった本問題は「処分場ありきではない関係」へと移行し、新たな段階へと進むこととなりました。

### 奇跡を起こした

#### 「三位一体」の連携

上智大学の織朱實（おりあけみ）教授は「一度許可が下りた事業業に対して、時間をかけて協議のあり方を転換できたことは本当にすごいこと」と取り組みを高く評価。

この成果は、近隣自治会や「あびらの自然を守る会」の皆様による粘り強い活動に加え、町と議会が一体となつて「反対の意思を可視化」してきたことによりもたらされたものです。

感情論にとどまらず、専門家の助言を踏まえた「科学的根拠」と「対話」を重視した新たな住民運動の形が、町を動かす大きな力となりました。

